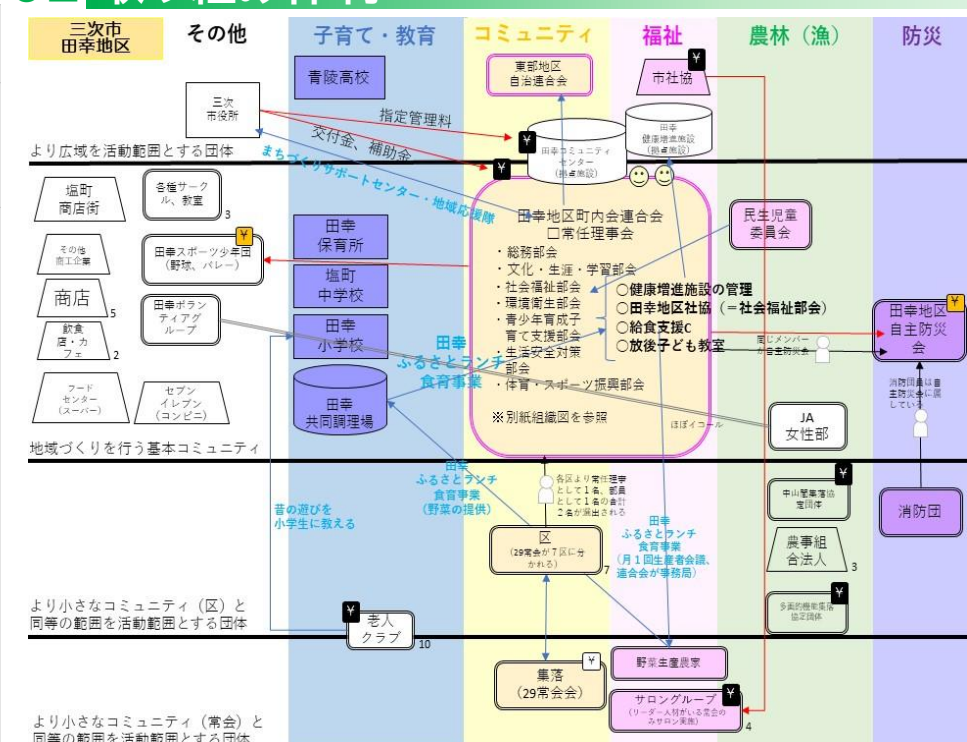


01 取り組み概要

実施主体	田幸地区町内会連合会
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ● 田幸住民同士の楽しく美味しい交流の場をつくりたい。 ● 「農業の田幸」を内外にPRしたい。めざせ関係人口増。 ● 若い世代を巻き込んだイベントにしたい。
内容	<p>「みんなで楽しもうやあ！田幸のまつりの復活じゃー」をキャッチフレーズにして、昭和、平成、令和と30回以上開催してきている農業と文化の祭典「田幸地区農業文化祭」の歴史と伝統を受け継ぎ、新しいアイデアと、次世代を担う若者たちを巻き込みながら、「秋の農産物の収穫、芸術や文化活動の成果(みのり)をまるごと発表する集大成の場として、田幸地区最大のイベントをめざしました。</p> <p>コロナ明けの四年ぶりの開催であり、人口減少と高齢化の中で、前年度組織化した「農業文化祭見直し検討委員会」の提言を尊重し、さらに公募した若手の企画運営スタッフを交え、この定番イベントに斬新なメスを入れ、イベントの名称、農産物品評会後の「セリ」を「即売会」に切り替えるなど、新しいアイデアや思い切った「改革」も行いました。「田幸まるごと農まつり」は、これからも進化します。</p>

02 取り組み体制



2019年度地元関係図上に表示

03 特徴・工夫

- 歴史と伝統のイベントにメスを入れました
 - 「田幸農業文化祭」から「田幸まるごと農まつり」へ改称しました。
 - 農産物の「セリ」を「即売会」に変更しました。
- 次世代を担う若者を巻き込んだイベントになりました
 - 公募した若手企画・運営スタッフが随所に活躍してくれました。
 - 修道大学「田幸発見隊」のフレッシュメンバーも応援してくれました。
- オール田幸、まるごと田幸色のイベントになりました
 - 作品展示は、地元住民に加え、地元保育所・小学校・中学校・高校からの作品であふれました。
 - ステージ発表も全て、小・中・高と地元田幸の方の出演でした。

04 成果と課題

成果

- 若手を交えた新しい実行委員会の誕生

人口減少と少子高齢化の中で、これまでのように「準備に3日かかる」イベントを見直し、省力化とアイデア出しで田幸の「身の丈に合った」イベント運営ができました。また、若手が実行委員に入ること、斬新なアイデアやイベント全体に活気がみなぎる感がありました。新たな「農村RMO」の取組も公表することもできました。

課題

- 「農産物品評会」は継続すべきか、否や

農協の審査員を招聘し、入賞者を決定する品評会をどうするのか。野菜販売の「軽トラ市」ではだめなのか。農を主体としたイベントだけに今後の大きな課題に。
- 情報発信して田幸の関係人口を増やしたい

修道大学「田幸発見隊」の力を借りてSNSを通じての情報発信をして、益々「田幸ファン」を増やしていきたい。

05 取り組みの様子

若い二人が司会者に！！

今年から装いも新たに若者が企画運営メンバーに参加！若いエネルギーでみんな元気をいただきました！

出揃った作品たち

日頃から町内会の講座活動として頑張っておられる方々の作品や地元の方々の力作が展示されました。

「ほほえみ館」を活用

会場を田幸コミセン広場としたため、「ほほえみ館」を農産物と作品の展示会場としましたがこじんまりと好評でした。

佐々木リョウ舞台に！

地元の民謡教室の皆さんや塩町中学校吹奏楽部、三次青陵高校の軽音楽部も盛り上げてくださいました！(若いっていいね！)ステージ最後は、地元田幸のシンガーソングライター佐々木リョウさんがステージに立ち、大トリをつとめていただきました。最高でした。みんなのってだよ。

農村RMOを披露する

作品&農産物展示スペースに、「田幸農村RMO」の展示を行い、来場者にお披露目ことができました。

最後は大抽選会で締め

若いメンバーで今までとは違った抽選会となりました。名前を呼ばれることに一喜一憂し、最後まで楽しんでおられました。

声

- 住民の
- ☆ 田幸には若い人が活躍されていていいねえ。活気があるよ。(田幸外の方)
 - ☆ 今年は若い人の姿がたくさん見られて、活気があったよ。
 - ☆ 大抽選会で3等が当たったよ。最後まで残っていてよかった。
 - ☆ 野菜が「セリ」でなく、スーパーみたいに値札見て簡単に買えたよ。

声

- スタッフの
- スタッフもみんなが楽しめる祭りになったね。
 - ステージ発表、どんどん盛り上がったね。
 - 佐々木リョウ、これからの地元田幸で応援しよう。
 - 大トリ抽選会良かった。時間ピッタリに終わったね。